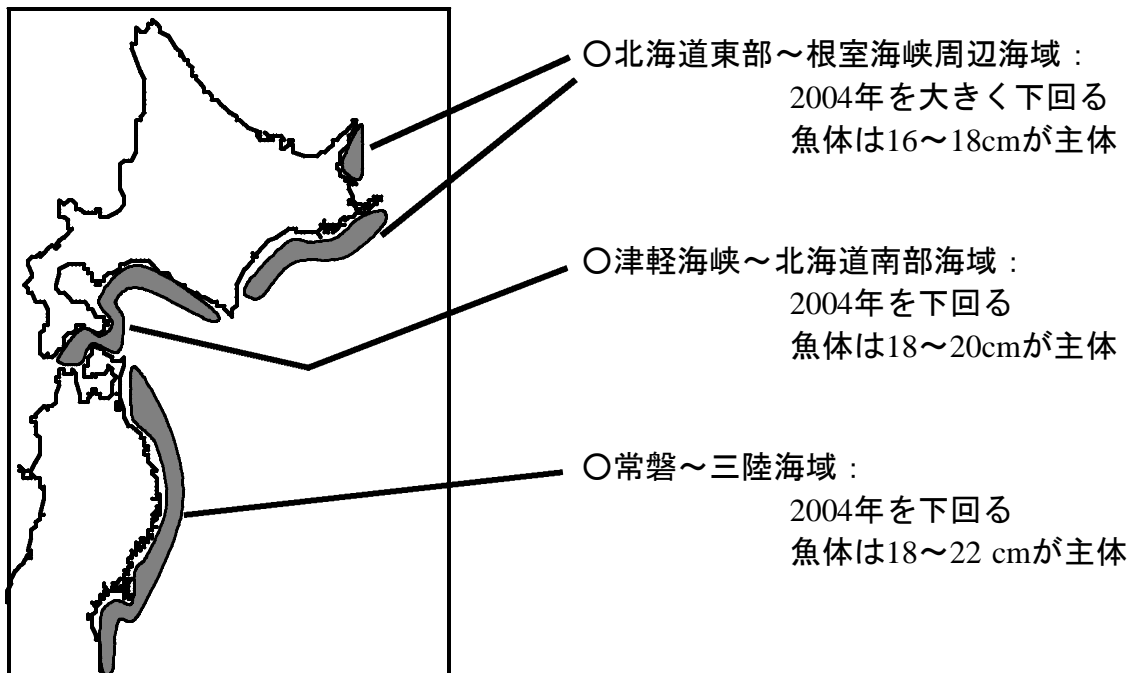


平成17年度第1回太平洋スルメイカ長期漁況予報

－ 別表の水産関係機関が検討し独立行政法人水産総合研究センター
北海道区水産研究所がとりまとめた結果 －

今後の見通し(2005年7月～9月)

常磐～北海道東部までの北部太平洋海域におけるスルメイカの来遊水準は2004年を下回る



1. 本予報は水産庁のホームページ(<http://www.jfa.maff.go.jp/>)、水産総合研究センターにおける我が国周辺水域資源調査等推進対策委託事業のホームページ(<http://abchan.job.affrc.go.jp/>)及び北海道区水産研究所のホームページ(<http://www.hnf.affrc.go.jp/>)に掲載されます。

2. 本予報の内容等に関する問い合わせ先は以下のとおりです。

水産庁 増殖推進部 漁場資源課 沿岸資源班 担当：青木、田中、笠原

〒100-8950 東京都千代田区霞が関1-2-1

電話：03-3502-8111(内線7376)、直通電話：03-3501-5098、ファックス：03-3592-0759

電子メール：chikage_tanaka@nm.maff.jp

独立行政法人水産総合研究センター 北海道区水産研究所 企画連絡室

〒085-0802 北海道釧路市桂恋116番地

電話：0154-91-9136、ファックス：0154-91-9355、電子メール：hnf@ml.affrc.go.jp

参 画 機 関

北海道立釧路水産試験場	和歌山県農林水産総合技術センター 水産試験場
北海道立函館水産試験場	
青森県水産総合研究センター	高知県水産試験場
岩手県水産技術センター	(社) 漁業情報サービスセンター
宮城県水産研究開発センター	水産庁
福島県水産試験場	独立行政法人 水産総合研究センター
茨城県水産試験場	北海道区水産研究所
千葉県水産総合研究センター	東北区水産研究所 八戸支所
神奈川県水産技術センター	日本海区水産研究所
静岡県水産試験場	中央水産研究所
三重県科学技術振興センター 水産研究部	

平成17年度第1回太平洋スルメイカ長期漁況予報

今後の見通し（2005年7～9月）

対象魚種：スルメイカ

対象海域：常磐～三陸海域、津軽海峡～北海道南部海域、
北海道東部～根室海峡周辺海域

対象漁業：いか釣り、底曳網、定置網、まき網

対象魚群：冬季発生系群（2005年級群）。

魚体の大きさは外套背長で表示。

1. 常磐～三陸海域（いか釣り、底曳網、定置網、まき網）

- (1) 来遊量：2004年を下回る。
- (2) 漁期・漁場：期間を通じて漁場となる。
- (3) 魚体：8月は18～22cmが主体。

2. 津軽海峡～北海道南部海域（いか釣り、定置網）

- (1) 来遊量：2004年を下回る。
- (2) 漁期・漁場：期間を通じて漁場となる。
- (3) 魚体：8月は18～20cmが主体。

3. 北海道東部～根室海峡周辺海域（いか釣り、定置網）

- (1) 来遊量：2004年を大きく下回る。
- (2) 漁期・漁場：北海道東部海域の漁場形成は2004年より遅れる。
根室海峡周辺海域の漁場形成は10月以降になる。
- (3) 魚体：8月は16～18cmが主体。

漁況の経過（2005年4～6月）および見通しについての説明

(1) 資源状態

太平洋海域で漁獲されるスルメイカは、冬季発生系群を主体にし、それに秋季発生系群の一部が含まれると考えられている。太平洋海域における資源水準を漁獲量の動向から推測すると、1970～1980年代の低水準期から1989年以降増加に転じ、最近10年間では1996年（漁獲量：276,249トン）が最も資源水準の高い年となった。近年の資源水準は年により増減は大きいですが、1992年以降は中位水準で推

移していると考えられる。2004年7～9月の常磐以北太平洋海域の漁獲量（生鮮）は58,819トであり、2003年同期（51,982ト）を上回った。

（2）関連調査結果

A：第1次漁場一斉調査

- ・いか釣りによる漁獲試験結果：6月上旬～6月下旬に実施された一斉調査結果（釣り）によると、平均CPUE（釣り機1台1時間当り漁獲尾数）は沿岸域（38°N以北、144°E以西）では0.3であり、2004年（3.0）を大きく下回った。沖合域（38°～42°N、144°～154°E）では0.1であり、2004年（0.8）を大きく下回った。全水域では0.2となり、2004年（1.5）を大きく下回り、2000年以降の平均（1.6）の10.4%の水準であった。CPUEが10を越える地点は認められず、ほぼ全域でCPUEは低い水準であった。

B：その他関連調査

- ・新規加入量調査結果：5月上旬～下旬に常磐～三陸沖合域で実施された表層トロールネットを用いた漁獲試験の結果、外套背長5cm以上のスルメイカの平均採集尾数（1曳網当たり漁獲尾数）は299尾であり、2004年（90尾）を大きく上回った。しかし、外套背長10cm以上の大型個体の平均採集尾数は0.1尾であり、2004年（9尾）を大きく下回った。分布の中心は東経155～162度付近にあり、2004年よりも沖合域に分布の中心を移していた。
- ・日本海における一斉調査結果：日本海で6～7月に実施された一斉調査において、津軽海峡西口周辺海域（39°～42°N、138°～140°E）における平均CPUEは9.1であり、2004年（11.1）をやや下回った。
- ・岩手県沿岸域におけるスルメイカ漁獲試験結果：6月中下旬に岩手県沿岸域で実施されたいか釣り調査によると、2005年の平均CPUEは0であり、2004年（4.8）を大きく下回り、2000年以降で最低の水準であった。

（3）2005年の各海域の漁況経過（主に4～6月）

- ・本州南方・四国海域：高知県沿岸での釣りによる5～6月の漁獲量（9ト）は、2004年（11ト）を下回った。和歌山県沿岸での釣りによる5～6月の漁獲量（15ト）は、2004年（4ト）を大きく上回った。三重県沿岸での釣りによる5～6月の漁獲量（48ト）は2004年（163ト）を大きく下回った。また中型まき網による5～6月の漁獲量（10ト）は2004年（254ト）を大きく下回った。静岡県沿岸での釣りによる5～6月の漁獲量（9ト）は2004年（58ト）を大きく下回った。神奈川県沿岸での釣りによる5～6月の漁獲量（0.4ト）は、2004年（2ト）を下回った。
- ・房総・常磐南部海域：千葉県沿岸での釣りによる5～6月の漁獲量（1ト）は、2004

年（1ト）と同じ水準であった。茨城県沿岸での底曳網による4～6月の漁獲量（1ト）は2004年（20ト）を大きく下回った。

- ・常磐北部・三陸海域：福島県沿岸での底曳網による6月の漁獲量（168ト）は、2004年（132ト）を上回った。宮城県沿岸での底曳網による6月の漁獲量（458ト）は2004年（1,073ト）を大きく下回り、釣りによる漁獲量（3ト）も2004年（109ト）を大きく下回った。岩手県沿岸での釣りによる6月の漁獲量（3ト）は2004年（124ト）を大きく下回ったが、定置網による漁獲量（446ト）は2004年（307ト）を上回った。青森県沿岸では、八戸および白糖沿岸の釣りによる6月の漁獲量（1ト、59ト）は、ともに2004年（17ト、187ト）を大きく下回った。
- ・大畑・道南海域：大畑近海での釣りによる6月の漁獲量（漁獲無し）は、2004年（29ト）を大きく下回った。函館港での釣りによる漁獲量（173ト）は2004年（184ト）を下回った。
- ・道東海域：道東近海での釣りの初漁はまだである（2004年は7月14日）。

（4）魚体の大きさ

- ・6月の漁場一斉調査（いか釣り）で漁獲されたスルメイカの全調査地点の外殻長組成はモードが14cmにある単峰型の組成であり、2004年よりモードで3cm小型であった。また例年よりも11cm以下の小型個体の割合が高くなっていた。海域別では三陸近海がモード16cm（2004年：16cm）、津軽海峡周辺海域がモード14cm（2004年：14, 18cm）、沖合域がモード10, 13cm（2004年：17cm）であった。
- ・宮城県沿岸で6月下旬～7月上旬に底曳網で漁獲されたスルメイカのモードは15～19cmであり、2004年より2～3cm小型であった。岩手県沿岸で6月に定置網で漁獲されたスルメイカのモードは14～16cmであり、2004年より1～2cm小型であった。

（5）今後の見通しの説明

- ・漁場一斉調査結果および本年6月までの各地の漁獲状況から判断すると、太平洋を北上するスルメイカ冬季発生系群の資源水準は、最近5年間で比較すると、2000年以降の最低水準にまで低下したと推測される。しかし、5月上～下旬に実施した新規加入量調査では外殻背長10cmを越える大型個体の漁獲量は少なかったが、5～10cmまでの小型個体は2004年を大きく上回る水準で採集され、その分布域の中心は東経155度以東の沖合域に形成されていた。また、茨城県の底曳網や静岡県定置網で2004年を上回る小型個体の漁獲が報告されている。これらのことから、一斉調査で用いたいか釣り機等ではまだ漁獲されない小型個体の資源水準は2004年を上回る可能性があるとして推測される。しかし、これら小型個体の成長様

式および漁場への回遊経路を考慮すると、これらが漁獲対象となるのは本年 9 月以降になると推測される。そのため、本予測期間である 7～9 月にかけての来遊水準は 2004 年を下回る水準と予測される。

- ・常磐～三陸沿岸域での漁獲対象資源は太平洋沿岸域を北上する群が主体であり、これに津軽海峡から加入する日本海由来の群れが加わると推定されている。三陸近海および津軽海峡周辺海域における漁獲情報と調査結果から、三陸周辺海域に来遊するスルメイカの資源水準は 2004 年を下回ると推測される。
- ・津軽海峡～道南海域での漁獲対象資源は、津軽海峡から加入する日本海由来の群と太平洋を北上する群である。漁獲情報と日本海で実施された一斉調査結果から、津軽海峡内および津軽海峡西口は昨年を下回る資源水準と推測されたが、これは日本海側の資源の減少および津軽海峡西口からの移動が昨年より遅くれているためと推測される。
- ・道東～根室海峡周辺海域に来遊するスルメイカは、太平洋沖合を北上する群と考えられている。沖合域での調査結果から、太平洋沖合域に分布するスルメイカの資源水準は 2000 年以降の最低水準と推定される。また、2005 年は道東沖合域の北上暖水の張り出しが 2004 年より弱いため、道東沿岸域への北上回遊が昨年よりも遅れると予想される。以上のことから、7～9 月における来遊水準は 2004 年を大きく下回ると推測される。

本邦北部太平洋でのスルメイカ漁獲量 (7～9 月)
(いか釣り・定置網・底曳網・まき網、生鮮、ト)

年	常磐・三陸	津軽海峡・道南	道東・根室海峡	合計
1992	20,536	20,932	9,858	51,325
1993	16,241	20,196	2,612	39,049
1994	24,646	20,348	5,064	50,058
1995	34,334	14,941	3,463	52,738
1996	73,062	30,662	11,441	115,165
1997	28,401	30,193	4,031	62,625
1998	9,847	7,028	2,725	19,600
1999	23,711	10,912	963	35,586
2000	37,457	11,845	7,125	56,427
2001	23,945	15,519	5,414	44,878
2002	35,882	12,588	1,017	49,487
2003	31,296	18,476	2,211	51,982
2004	39,063	15,152	4,603	58,819